

キリスト教保育連盟 神奈川県 2022年度主題
つながって 今、わたしを生きる

聖句「主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。」 —詩編121編7・8節—

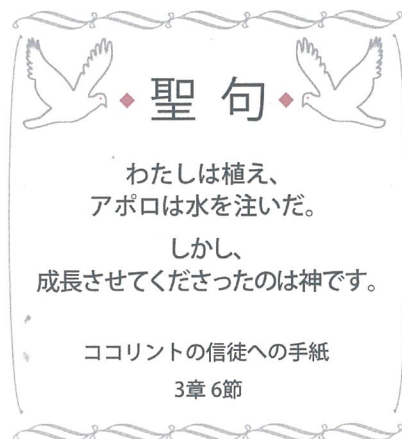
部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県
2023年3月1日
第142号



「子どもを育て、 園を育て、縁を育てる」 関東学院のびのびのば園 園長 仲程 剛

関東学院のびのびのば園は、昨年度、こども園になって十年目でした。今年度、年間を通して十周年の記念事業を行い、その中で一番大きなものが「園庭の改造」でした。園庭改造については、過去数年間にわたり、職員で研修・検討を重ね、特に昨年度は「のびのびのば園の保育理念と一人ひとりの保育者の思いを形にする」という視点で、造園の専門家も招いて、何回も検討しました。そして、紆余曲折を経ながらも、この十二月に新しい園庭が完成しました。



新しい園庭は、子どもたちがより自然に近い環境の中で遊び込めるように、これまでの園庭よりも多くの樹木を植え、植え込みに潜り込んだり崖登りをしたりできる築山や、農園やガチャポンプ(手押しポンプ)、多目的の広場などもあり、子どもの遊びの種類も広がってくると期待しています。

ところで、木を育てる際には、植えた翌年に収穫(花や実)を期待することはまずありません。一方、田畑の作物や花は、春に植えたものを秋に収穫する等、できるだけ早くその結果(花や実)を求めます。

また農作物は、収穫後はたいてい枯れてしましますが、立派に成長した木は、花や実が一年だけで終わることなく毎年つけてくれます。

だから、木を育てる場合は、何年か先を見据えた木の成長そのものを大事にします。

何しろ、木がそこにあるということが大事であり、きれいに咲く花や収穫する果実だけでなく、幹や枝、葉っぱそれぞれにも、その木独特の存在感があります。

子育ては、子どもを「農作物のように」ではなく「木のように」育てることだと思えます。性急に結果を求めることをせず、まずは今生きていることを大事にし、風や雨にも負けないように、しなやかで丈夫な幹(心と体)を育て、個性豊かに枝や葉(意欲や知識・技能)

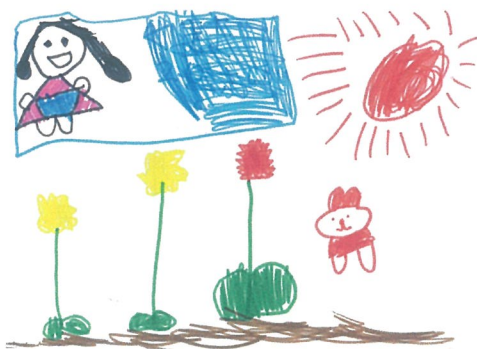
を伸ばします。

そして、その個性を生かした収穫が継続できる(豊かな人生を送る)ように育てること、つまり子どもの将来を見据えた関わりが大事です。

しかし、パウロも「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」と言っているように、どんなに人間が意図的・計画的に関わったとしても、子どもの成長は、究極的には、神の祝福と恵みによるものです。

私たち保育者・保護者にできるのは、神の恵みの中で、子どもを中心とした人と人との関わりを大切にして、神様の愛に基づいたそれぞれの役割を真摯に全うすることです。

のびのびのば園は、神様の愛を実践する場として、子育てと同時に、(園庭)を育て、縁を育てていきたいと思えます。



「遊び」

夏期講習会での

学びを保育へ

学校法人荻野学園

ひかりの子幼稚園

教諭 三木育美

夏期講習会では礼拝をおして、私たちの近くにも神様がいてくださり、見守ってくださることを改めて感じました。礼拝のお話の中でも印象的だったのは、人は一人では生きていくことはできない、誰かと共に生きていくという言葉でした。

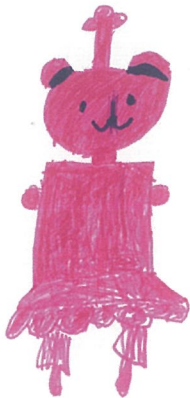
孤独を感じやすく生きづらい世の中にあっても、身近な交わりなどの中で誰かとつながり合い、心を通わせ合う時間を大切にすれば、生きていく喜びへとつながり、支え合って生きることができると感じました。

このことは河邊先生からの学びにもつながり、これから先を生きていく子どもたちが、遊びをとおして自己を肯定する力が育まれることや他者との関わり合いを楽しむ中で生まれる喜びによって、悲しいことや失敗などうまくいかないことがあって

も、一人ではないという思いを持つ

ことができるなど、一人ひとりの生きていく力につながっていくということを学びました。このことから自発的で子どもにとつての面白さが感じられる充実した遊びは幼児期の育ちを支えるだけでなくその後の人生をよりよく生きる土台作りとなるということを学び、遊びの意義を深く理解する大切さを感じました。

幼稚園等にあつては子どもが自ら遊びだし、遊び深めていくことができるよう、子どもの姿を丁寧に捉えて環境を構成することが大切であり、保育者自身も環境の一部として子どもたちが何を面白がっているのかを理解し、遊びを援助していくことが大切であるということを中心に改めてこれからの保育に生かしていきたいと思えます。



やっぱり遊びは

おもしろい!

認定こども園 捜真幼稚園

伊藤 香奈

ミン、ミンとセミの鳴く声と子どもたちの元気な声を耳にしながらリモートでの夏期講習会に参加させていただきました。まだまだ大勢の人が集まっていたので、金先生の祈り時代ではありますが、全国の保育をする仲間たちと手と手を取り合い一つになれた気がして、祈りの力によって本当に大きいと感じ、嬉しく思いました。

講習会では、河邊先生より私たちの園でもとても大切に行っている「遊び」について、「遊び込む子どもを育てる」という貴重なお話をお聴きしました。お話を聴きながら子どもたちの姿をたくさん思い出し、「そうよね! そうよね!」「子どもって、本当にすごい!」そんなことを考えながら夢中になって聴かせていただきました。幼児なりの好奇心や探究心を持つことがとても大切であり一つの遊びから多くの事を学んでいると改めて感じました。私たちの園の中で一番小さな一歳児クラスの子ど

もであっても好奇心や探究心はしっかり持っているなあと感じる姿がたくさんあります。雨上がりでつるつると滑る築山に登ってみたい! 夢中になって登り始め、何度ずり落ちて諦めず、そのうちにちよつと考えて、踏み込む足の角度を少し変えて滑ることをおさえながらハイハイで登っていく姿に感動したことを思い出しました。遊びの中で繰り返しられる体験の積み重ねこそが本当に大切なのだと改めて強く感じました。夏期講習会に参加させていただき、日々子どもたちの一番近くで遊びを共にできる喜び、共に考えられる喜びに心から感謝したいと思えました。



「遊ぶ」と「遊びこむ」

相模翠ヶ丘幼稚園

教諭 平野七彩

子どもたちが遊んでいる姿を見せ
て頂いて良いなど感じるのは、子ども
たちが「遊びこんでいる」姿や表
情です。この「遊びこむ」「のめり
こむ」といった一歩先の経験が、子
どもたちがこれから生きていく上で
欠かせない大切な学びに繋がってい
くのだと感じています。

今回の河邊先生のお話の中で、子
どもたちは保育者と安定した関係の
もとで、それぞれの遊びが保障され、
遊びのストーリーが生まれるという
言葉が印象に残りました。それと同
時に、日頃子どもたちの絶え間ない
「これ作りたい、あれ作りたい」の
声に「ちよつと待ってね」の一言で
遊びのストーリーの大事なスタート
地点をキヤッチし損ねてしまってい
る自分がいるのではないかと反省す
ることができました。

私は今年度から初めて担任をさせ
て頂いておりますが、担当の年少ク
ラスの年齢では特に保育者のあと一
歩の援助が重要です。子どもたちの
興味・関心を読み取り、その延長線
上に援助の可能性を探っていくとい

う保育者としての重要な関わりを実
行していくことの大切さと難しさを
この半年で痛感しました。

今回のお話では、子どもの「こう
してみたい」をスタート地点として、
それを達成するために考え、試し、
悔しさや葛藤を感じながら、その過
程の中で自信を持つたり友達と協力
する楽しさを知ることが、本当の
『学び』になるのだと学ぶことがで
きました。このような豊かな遊びを
実現するために、子どもの気持ち
くみ取り、適切なタイミングで援助
をする保育者の関わりと、自由に活
動を深められる時間や空間、道具な
どの「遊びこむ経験」を実現する環
境づくりを考え、実践していきたい
と思えました。



子どもと遊びを

とらえるために

認定こども園 平和学園幼稚園

園長 小湊将之

子どもにとって「遊び」は命です。
あるときの年長組の子どもたちが、
小学校進学前にこんなことを話して
いました。「小学校では二十分（中
休み？）しか遊ぶ時間がないらしい
よ。」

大真面目な顔でそんなことを話し
ながら、その瞬間を懸命に遊ぼうと
する姿が印象に残っています。

今回、夏期講習会では河邊貴子先
生より「遊びこむ子どもを育てよう
〜遊びの意義と保育者の役割〜」を
テーマにご講演をいただきました。

改めて、子どもの生活にとつてい
かに遊びが大切なのかということ
学びました。同時に、私たち保育者
がどのように子どもたちに関わり、
ひとつの人的環境として子どもたち
の前に在るべきかを考える機会とな
りました。子どもたちは、遊びを始
めていく中で、深めていく中で「能
動性・自律性」や「課題解決にむけ
た主体的な関わり」「他者との共同
的問題解決」など育ちにとって重要
な要素や能力と出合い経験をします。

私たちは、幼児教育に携わる専門

家として子どもたちが遊びを磨き上
げていくためのお手伝いをする必要
があります。自身や自園の保育を振
り返ると…主体性や自由性を尊重す
るあまり（している気になって？）

意図せず保育が放任的になってしま
うことがあります。何を感じ、何を
見て、どう投げかけていくか。人間
として、また子どもを取り巻くひと
つの環境として、必要なことは何か
を考えたいと思います。「先生も楽
しく」のメッセージも大切に子ども
と共に歩みたいものです。

最後に、この学びと気づきの機会
を与え、守ってくださった神さまに
感謝いたします。



園長設置者主任研修会

報告

十二月二十七日(火) 十時～十二時

場所 野毛山キリストの教会、野毛山幼稚園

礼拝 宮川周子先生(横浜本牧協会附属早

苗幼稚園)マタイによる福音書一五章七節

出席 二十六名

礼拝の後園長設置者、主任のグループに分かれて話し合いの時をもちました。

話し合いのテーマ

「コロナ禍での2年間の思い、

これからの部会活動について」

各グループ、コロナ禍の中で見直した
こと、コロナ禍での行事についてのメリ
ット、デメリット、各園での保育の悩み
等話は尽きることなく、お互いの園の状
況を伝えあうことができました。また、
久しぶりの対面での研修会であり、お互
いの園の取り組みを知り、実り多い時間
となりました。

グループでの話し合いの後は全員で集
まり、各グループでの話し合いの内容を
分かち合いました。最後に鈴木部会長よ
り次年度役員改選についての説明が行わ
れ、折りをもって研修会を終えることが
できました。

年末のお忙しい中、参加して頂いた園
長、設置者、主任の皆様ありがとうございました。
次年度はより多くの園の方に
集まって頂き、研修が共に持てます事
を祈っています。

役員会報告

書記 島義信

●第五回役員会 九月十三日(火)

ウェブ会議形式で行いました。

●中堅保育者研修会 九月二十一日(水)

ウェブ会議形式で篠田真紀子牧師より「生き
る姿勢」後悔しない私を生きる」についての
学びの時を持ちました。

●第六回役員会 十月二十七日(木)

ウェブ会議形式で行いました。

●第二回講演会 十一月九日(水)

野毛山幼稚園(野毛山キリストの教会)礼拝
堂にて対面とウェブ形式併用で関東学院
小学校校長・岡崎一実先生を講師に、「小学
校からみた幼稚園教育」と題してご講演い
ただきました。

●クリスマス礼拝 十一月三十日(水)

清水ヶ丘教会にて対面とウェブ形式併用で
前神奈川部会長の島田勝彦牧師より礼拝
メッセージをいただきました。

●第七回役員会 十一月三十日(水)

清水ヶ丘教会にてクリスマス礼拝後に対面
で行いました。

●設置者・園長・主任研修会

十二月二十七日(火)
対面形式で四～五人の小グループで「コロ
ナ禍の2年間の思い・これからの部会につ
いて」語り合いました。

●保育環境研修会 一月十一日(水)

ドレーパー記念幼稚園の新園舎の見学と
児童発達支援・放課後デイサービス「もんた
た」の取り組みを佐竹和平先生よりお話
しいただきました。

●第八回役員会 一月二十四日(火)

ウェブ会議形式で行いました。

●第一回新任保育者研修会

一月二十五日(水)
ウェブ会議形式で中島聡牧師より「キリ
スト教保育の恵み」と題して学びの時を
持ちました。

●役員選挙について

・二月二十一日までに役員候補者届。
・二月中旬に役員候補者名簿と投票用紙配布。
・三月三日までに投票。
・三月十日以降、次期役員候補者を得票準に交
渉いたします。
・四月の総会にて次期役員の承認をいただき
ます。

・役員については総会後、新役員で決定します。

●第九回役員会 三月六日(月)

ウェブ形式にて予定。

二〇二二年度予定

- 神奈川部会総会 四月二十日(木)十五時
清水ヶ丘教会にて
- プロジェクト委員会 四月二十日(木)
清水ヶ丘教会にて総会後顔合わせ
- 新任歓迎会 四月二十六日(水)
野毛山幼稚園・野毛山キリストの教会にて

編 集 後 記

「氷鬼しよう!」「マラソンしよう!」と子どもたちは寒さに負けず元
気よく園庭を走り回っています。畑では霜柱を見つけては踏み、
その感触を楽しみます。バケツの氷を見つけて喜ぶ姿もあります。
冬ならではの遊びを楽しむ子どもたちです。プランターのチュー
リップが芽を出しているのを見つけました。子どもたちの成長と
ともに春の訪れが楽しみです。「部会だより」発行にご協力いただ
けましたことに感謝いたします。来年度もどうぞよろしく願いま
します。



◇発行日 2023年3月1日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
和泉保育園/平本麻美
霞ヶ丘幼稚園/大西亜津子

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 和泉保育園